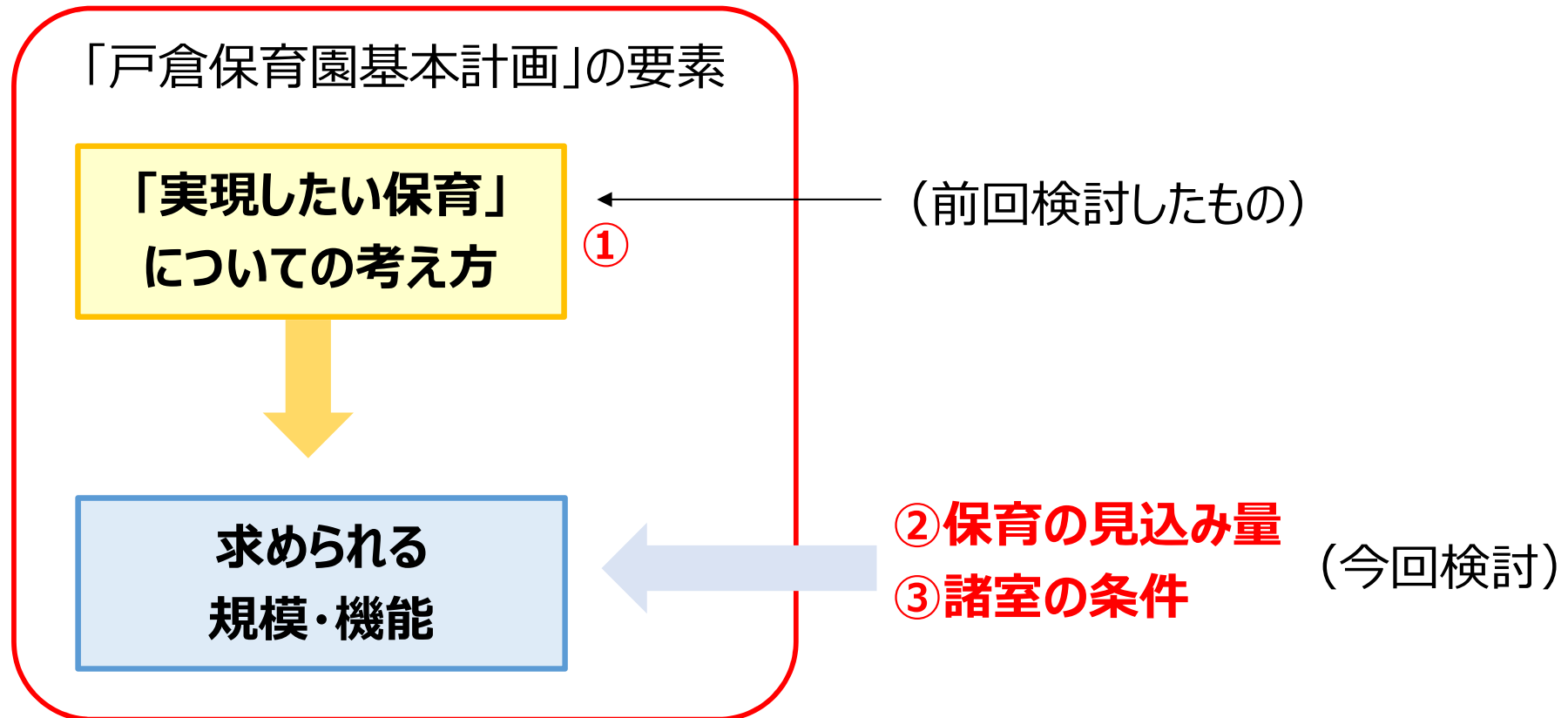


新しい戸倉保育園の規模・機能を 検討するための前提

- 1) 実現したい保育
- 2) 求められる規模・機能
 - ① 保育の見込み量
 - ② 諸室の条件

新しい戸倉保育園の設計についての考え方をまとめる「基本計画」には、2つの要素があります。



1) 実現したい保育

(保育に求められる3つの視点)

1. 子どもの主体性を促す

2. 様々なニーズに応じて安全・安心な環境をつくる

3. 家庭や地域と連携する

＜戸倉保育園で実現すべき保育＞

①多様な体験や交流を通じ、園児ひとりひとりの自主性・協調性を培う

②様々な用途に対応し、安心・安全な環境を提供する

③保護者や地域とスムーズに関われる場をつくる

＜新しい施設を整備する際の方向性＞

○ひとりひとりが自分で「遊び」を探せる空間

ひとりひとりが自分の関心に応じて「遊び」を見つけ、自主性を育める

○自然に触れる様々な体験を提供できる空間

木々や草花、ビオトープ、築山、遊具などで、様々な体験ができる

○オープンで行き来の自由な空間

個々の部屋に閉じこもらず、クラスを超えた子ども同士の自由な交流を促し、関わり方や協調性を育むことができる

○可動性・汎用性がある様々な使い方に対応できる空間

様々な預かりニーズや、緊急・臨時に対応する柔軟性がある

○怪我・病気、感染、防災、防犯に配慮された安心できる空間

冷暖房や防災防犯などがしっかりした設備・機能をもっている

○保育士と親のコミュニケーションを促進する空間

送迎のスムーズな動線、駐車場の利便性、保育士との会話環境がある

○保護者や地域の参加できる環境

様々なひとが参加できる行事・イベントや地域活動の場になる

2) 求められる規模・機能

①新しい保育園の「保育の見込み量」

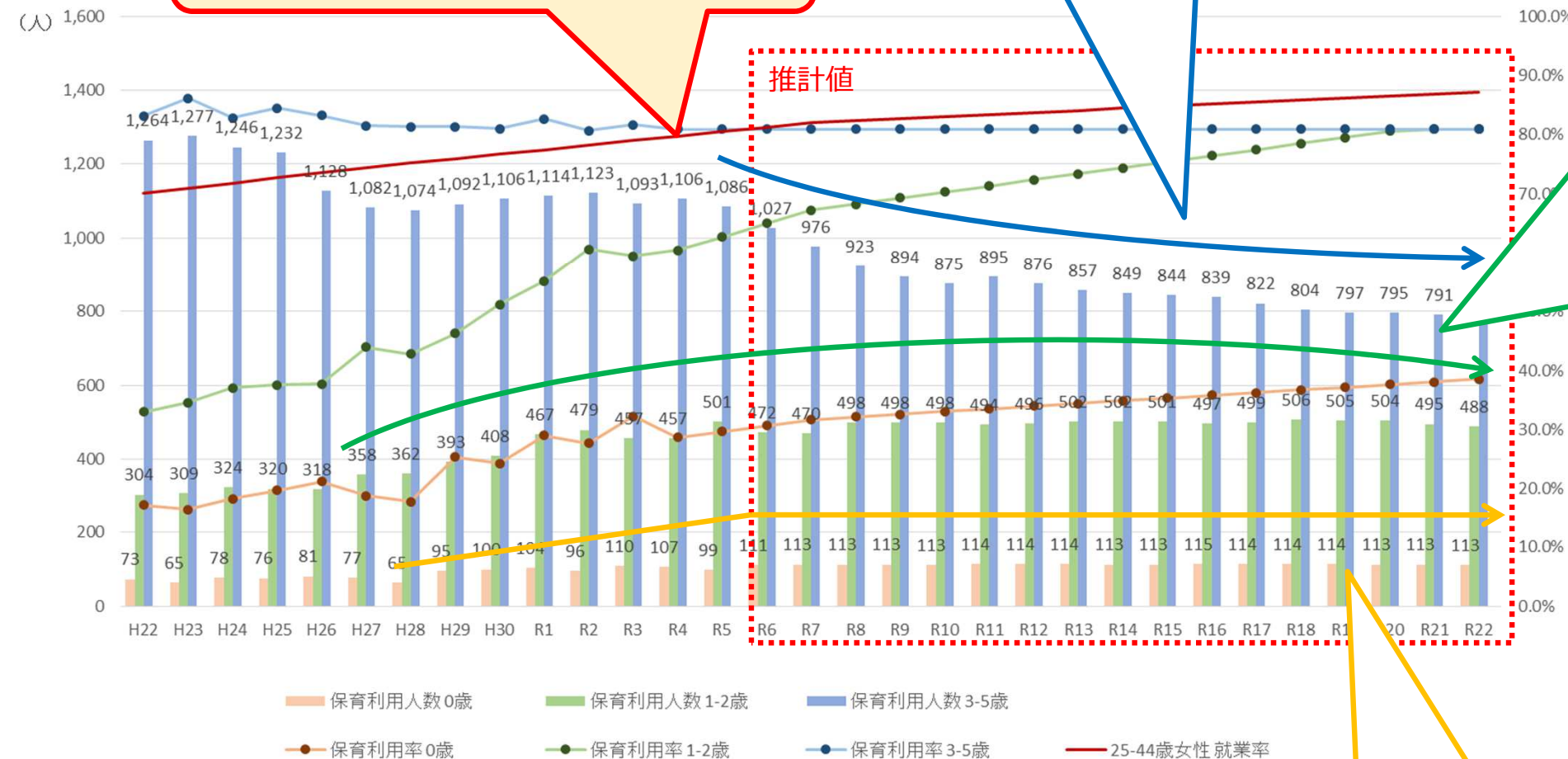
1) 千曲市全体の保育の見込み量

女性就業率が上昇見込みで、3歳未満児の保育ニーズが高まるとみられます。

3-5歳児の保育利用人数は、人口と共に減少する見込みです。

1-2歳児の保育利用人数は上昇、のちゆるやかに横ばいへ移行の見込みです。人口は減るものの利用率増加が予想されるためです。

0歳児の保育利用人数は、上昇したのち横ばいへ移行する込みです。



※令和6年度以降の推計値は、令和5年度の実績をベースに国立社会保障・人口問題研究所による推計を用いて算出

2) 戸倉・更級・五加圏域での保育の見込み量

保育の見込み量を考えるとき、近隣の保育園も含めて考えることが重要になります（ひとつの保育園が定員オーバーしても、近隣の園でカバーし、地域全体として必要な保育ニーズに対応していくこと）。

そこで、ここでは**戸倉・更級・五加圏域**全体としての見込み量を整理します。（私立保育園・幼稚園含む）

◆圏域全体の定員

	圏域全体の定員の合計（人）
0歳	28
1-2歳	129
3-5歳	515

◆これまでの実績と見込み

戸倉・更級・五加	R1	R2	R3	R4	見込み						定員×1.2	定員
0歳	26	24	27	26	31	29	30	30	30	30	34	28
1-2歳	119	117	113	115	134	145	146	140	139	139	155	129
3-5歳	280	273	270	259	250	232	231	239	238	234	618	515

・0歳児、1-2歳児はいずれも直近で増加したのち、そのまま高止まりで推移する見込みです。
それでも定員の1.2倍以内には留まると見込まれます。

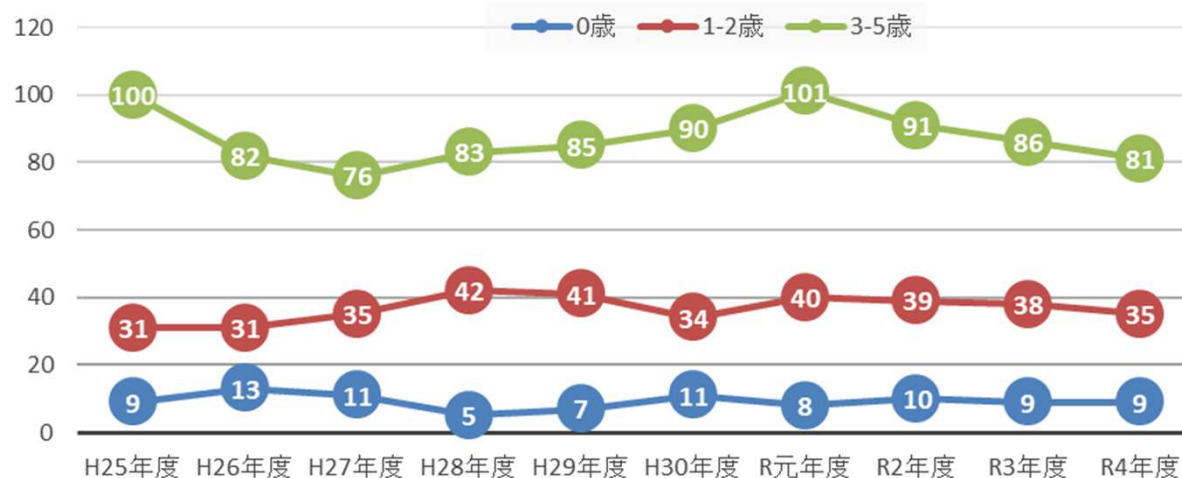
・3-5歳児は減少していく見込みです。

※五加保育園は増築を予定しており、令和8年度以降に3歳未満児定員が増加する見込みです。

※少子化が進むため、さらに長期的にみれば、徐々に量は減少すると見込まれます。

3) 戸倉小学校区での保育の見込み量

◆戸倉保育園の 預かり量の実績



保育の量は、戸倉小学校区では減少傾向にあり、市全体でも長期的には減少見込みです。一方で「戸倉・更級・五加圏域」でみると0歳児、1-2歳児は増加しており（前ページ）、この年齢では、当面現状規模を維持する必要があるとみられます。

以上から、新保育園の定員について、右のとおりの見直しを検討しています。

〈現在の定員〉

	定員
0歳	15名
1歳	15名
2歳	20名
3歳	30名
4歳	35名
5歳	35名
合計	150名



〈見直し案〉

	定員
0歳	15名
1歳	15名
2歳	20名
3歳	30名
4歳	30名
5歳	30名
合計	140名

②新しい保育園の「諸室の条件」

	室名	対応する主な「実現したい保育」の考え方		想定規模	条件等
保育空間	A.保育室 (乳児室または ほふく室)	○オープンで行き来の自由な空間 ○可動性・汎用性がある様々な使い方に対応できる空間	0歳児室	約65㎡	定員15名:29.7㎡以上
			1歳児室	約65㎡	定員:1歳15名、2歳20名 1学年35.6㎡以上
			2歳児室	約70㎡	
				約70㎡	定員:3歳30名、4歳・5歳 各35名 1学年39.6㎡以上
			3歳児室	約70㎡	
			4歳児室	約75㎡	
			5歳児室	約75㎡	
	B.遊戯室	○ひとりひとりが自分で「遊び」を探せる空間		約300㎡	
共通空間	C.半屋外空間	○オープンで行き来の自由な空間 ○ひとりひとりが自分で「遊び」を探せる空間 ○可動性・汎用性がある様々な使い方に対応できる空間 ○保育士と親のコミュニケーションを促進する空間		約200㎡	・雨天時を想定した整備
	C.廊下、階段、 フリースペース等			約300㎡	・送迎のスムーズな 動線の確保
	D.便所、水飲み場 等			トイレ保育室 2室に1箇所	・こども用、大人用(男女) バリアフリー対応
外部 連携	E.預かり保育室、 子育て相談室等	○可動性・汎用性がある様々な使い方に対応できる空間 ○保育士と親のコミュニケーションを促進する空間 ○怪我・病気、感染、防災、防犯に配慮された安心できる 空間		約50㎡	・一時預かりへの対応 ・相談等への対応
管理 空間	F.職員室、調理室等			約200㎡	・搬入路の確保
屋外	G.運動スペース、 緑化スペース	○ひとりひとりが自分で「遊び」を探せる空間 ○自然に触れる様々な体験を提供できる空間		—	・運動会用トラックの確保 ・維持管理のしやすさ
	G.駐車場			職員用10台	※不足分は、隣接する敷地で の利用を想定